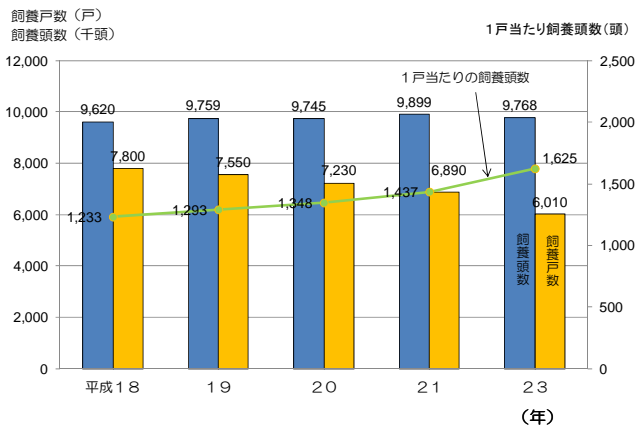


豚 肉

◆飼養動向

23年2月現在の1戸当たり飼養頭数は前回比13.1%増の1,625頭

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数



資料:農林水産省「畜産統計」

注1:各年2月1日現在

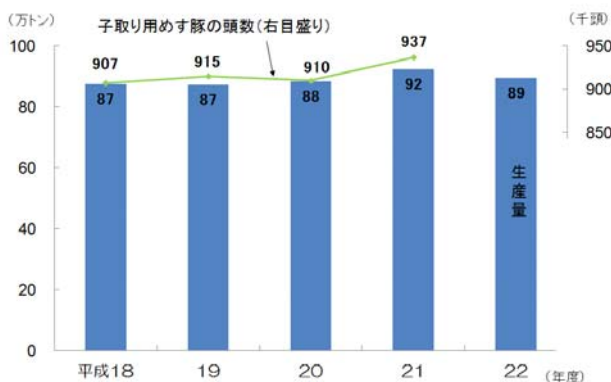
2:22年は世界農林業センサスの調査年のためデータがない

23年2月1日現在の豚の飼養戸数は6,010戸(前回調査対比▲12.8%)と小規模の飼養者層を中心にかなり大きく減少し、飼養頭数は9,768千頭(▲1.3%)とわずかな減少にとどまった。この結果、1戸当たりの飼養頭数はかなり大きく増加し、1,625頭(13.1%)となった(図1)。

◆生 産

22年度の豚肉生産量は、89.3万トン(▲3.2%)と3年ぶりに減少

図2 豚肉生産量と子取り用めす豚の頭数



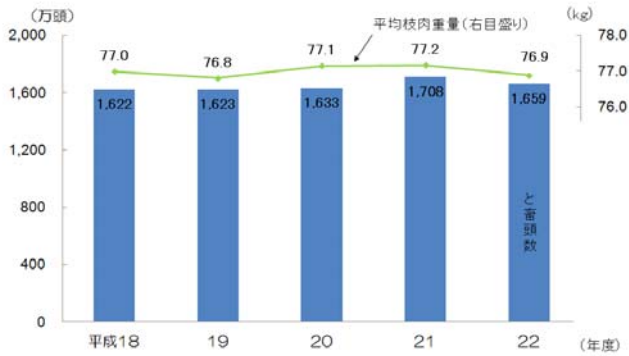
資料:農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」

注1:生産量は、部分肉ベース

2:子取り用めす豚の頭数は、各年2月1日現在。22年は世界農林業センサスの調査年のためデータがない

豚肉生産量は、20年度は衛生対策による事故率低減などから前年度を上回り、21年度も衛生対策の効果や子取り用めす豚頭数の増加から4.6%増の92万3千トンと2年連続で前年度を上回った。一方、22年度は宮崎県における口蹄疫の発生や記録的猛暑の影響による出荷頭数の減少から、3.2%減の89万3千トンと3年ぶりに前年度を下回った(図2)。

図3 豚のと畜頭数と平均枝肉重量



資料:農林水産省「食肉流通統計」

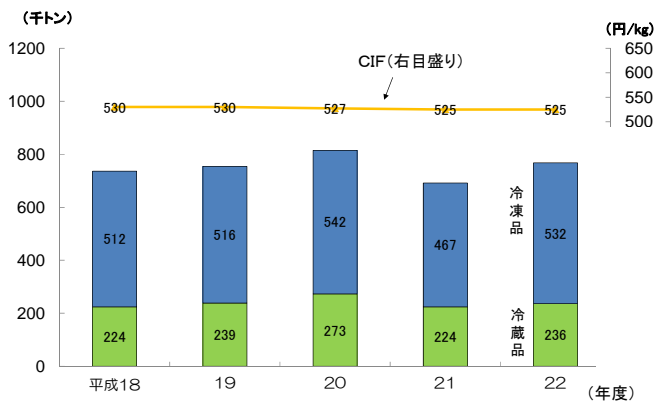
注:平均枝肉重量は全国平均

豚のと畜頭数は、18年度以降、堅調な豚肉需要を背景に増加傾向で推移したが、22年度は記録的猛暑の影響により受胎率が悪化したことから1659万3千頭(▲2.8%)と6年ぶりに前年度を下回った。また、22年度の平均枝肉重量は、夏場の気温上昇による増体重の低下から、1頭当たり76.9kg(▲0.4%)と3年ぶりに前年度を下回った(図3)。

◆ 輸 入

輸入量は76万8千トン(11.0%)とかなり大きく増加

図4 豚肉の冷蔵品、冷凍品別輸入量とCIF価格



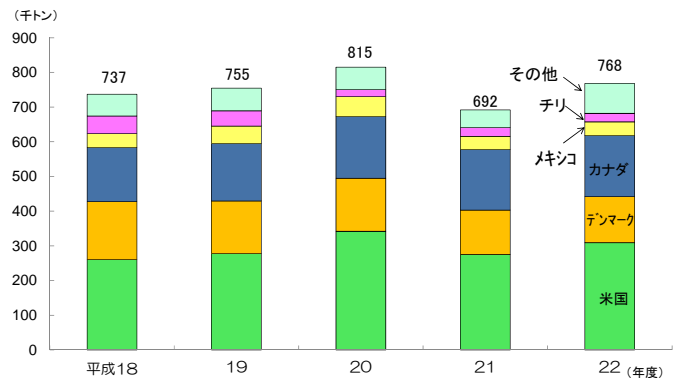
資料:財務省「貿易統計」

注:部分肉ベース

豚肉の輸入量は、国内外でのBSEや高病原性鳥インフルエンザ発生に起因する牛・鶏肉の代替需要により増加傾向で推移してきた。19年度は堅調な需要を背景とする北米産の輸入量の増加のため、前年度を上回って推移し、20年度は景気低迷による経済性志向を背景に2年連続で前年度を上回った。しかし、21年度は、20、21年度と国内生産量の増加により国産冷凍品の在庫が高水準となり、加工仕

向け用としての冷凍品の輸入が減少した、22年度は国内生産量が減少したことなどから前年度を11.0%上回る768千トンとなった(図4)。

図5 豚肉の国別輸入量



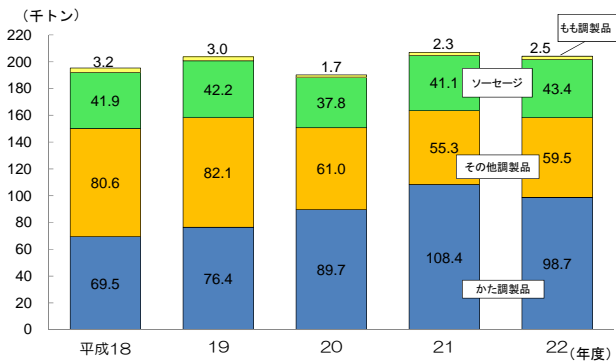
資料:財務省「貿易統計」

注:部分肉ベース

国別輸入量の推移をみると、22年度は、米国産31万トン(12.3%)、カナダ産18万トン(0.9%)、デンマーク産13万トン(3.8%)、メキシコ産4万トン(4.0%)といずれも前年度を上回った。(図5)。

調製品

図 6 豚肉調製品およびソーセージの輸入量



料:財務省「貿易統計」

注:もも調製品:1602-41-090

かた調製品:1602-42-090

その他調製品:1602-49-290

ソーセージ:1601-00-000

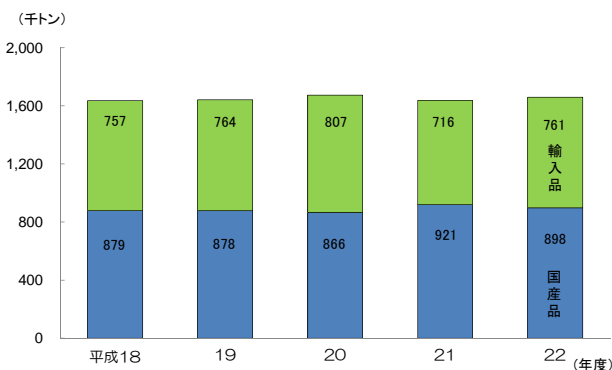
豚肉調製品(豚の肉またはくず肉のみから成るものを除く。)やソーセージは、19年度後半に起きた中国産冷凍ギョーザ事件を契機に、20年度は中国産調製品を中心に減少した。21年度は景気低迷による低価格志向を背景に、より安価な輸入品に頼る傾向が強くなり、再び増加した。22年度はソーセージは4万3千トン(5.6%)と増加したものの、豚肉調製品(もも、かた、その他の計)は、かた調製品がかなりの程度減少したため、16万1千トン(▲3.1%)と前年度をやや下回った(図6)。

◆消費

推定出回り量は、166万トン(1.4%)とわずかに増加

推定出回り量

図 7 豚肉の推定出回り量



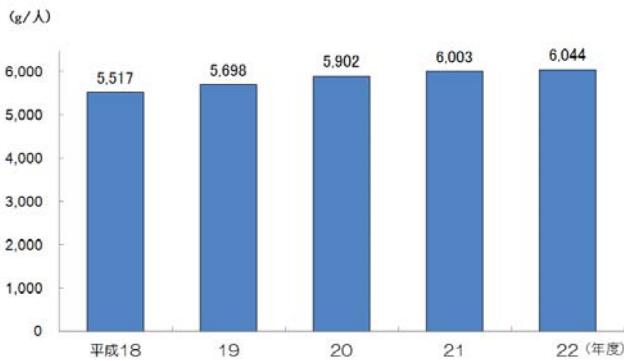
資料:農林水産省「食肉流通統計」,財務省「貿易統計」,農畜産業振興機構調べ

注:部分肉ベース

豚肉の推定出回り量は、18年度以降、ほぼ横ばい傾向で推移している。20年度は景気の低迷による低価格志向から輸入品が81万トン(5.7%)と前年度をやや上回った。21年度は国産品の枝肉卸売価格の低下などを背景に需要が高まったことから、国産品が92万トン(6.3%)と4年ぶりに前年度を上回った。22年度は国内生産量が減少した一方で、輸入品がかなり大きく増加したことから、推定出回り量の内訳も国産品が90万トン(▲2.5%)と減少したものの、輸入品が76万トン(6.3%)と増加し、合計で166万トン(1.4%)となった(図7)。

家計消費

図 8 豚肉の家計消費量(1人当たり)



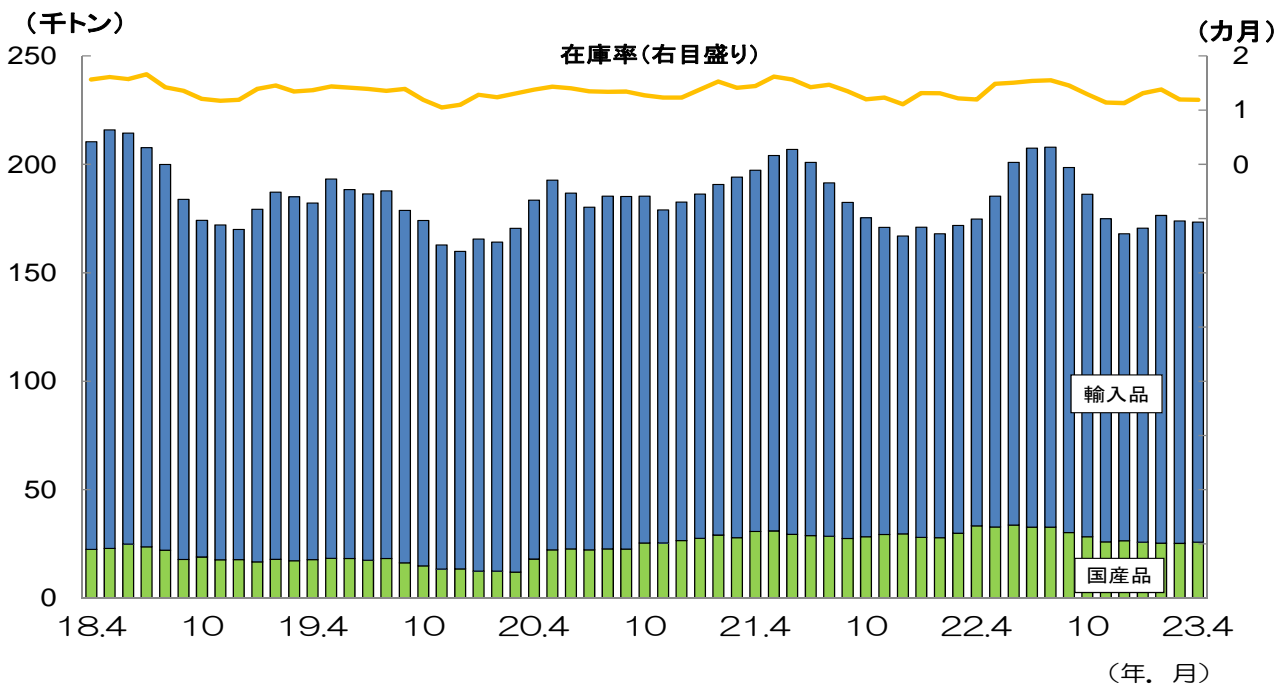
資料:総務省「家計調査報告」

18年度以降の豚肉の家計消費量は、増加傾向で推移している。21年度は国産豚肉の価格が低下したため、1人当たり6,003グラム(1.7%)となった。22年度は前年度に比べ豚肉価格は上昇したものの、依然として消費者の低価格志向が根強い中で、牛肉に比べて値ごろ感があることや、鳥インフルエンザに伴う鶏肉からの代替需要などから堅調に推移し、同6,044グラム(0.7%)となった(図8)。

◆在庫

22年度期末在庫は、17万4千トン(1.2%)と2年ぶりに増加

図 9 豚肉推定期末在庫量と在庫率



資料:農畜産業振興機構調べ

注1:在庫率=在庫量/推定出回り量

2:部分肉ベース

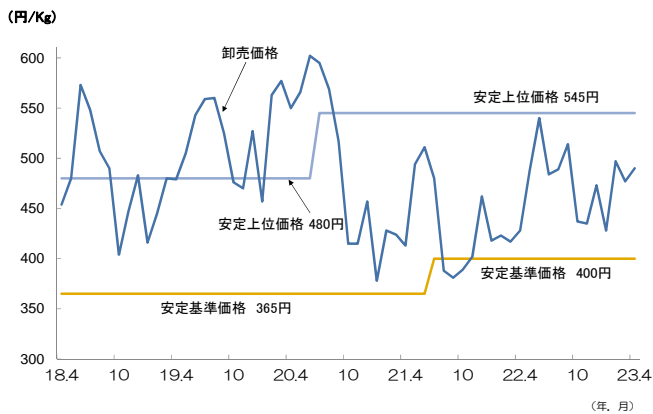
豚肉の期末在庫量は、20年度は19万4千トンと高水準であったが、国産卸売価格の低下に伴って、輸入量が減少し、21年度は17万2千トン(▲11.5%)と減少した。22年度は、夏場にかけて輸入量が増加したことから、8月末には20

万8千トンと大幅に増加した。しかし、下期に入ると、生産量が前年度を下回る中、輸入品を中心に取り崩しが進み、推定期末在庫は17万4千トン(1.2%)となった。内訳は、国産品が2万5千トン(▲15.5%)、輸入品が14万9千トン(4.8%)となった(図9)。

◆枝肉卸売価格(東京・省令)

前年度を43円上回るキログラム当たり474円(10.0%)

図10 豚肉の卸売価格(東京・省令)



資料:農林水産省「食肉流通統計」

注1:消費税を含む

2:省令は、極上と上の加重平均

豚肉の卸売価格は、19年度後半から家計消費や業務用需要が増加し、さらに20年度前半は中国産冷凍ギョーザ事件を契機に国産志向が高まったことから、キログラム当たり600円を超える記録的な高値をつけた。20年度後半から、生産量の増加と景気低迷などにより価格は軟調に推移し、21年秋には同300円台後半まで値を下げた。このため、畜産業振興事業による調整保管が6年ぶりに実施され、21年度の平均卸売価格は、同431円(▲13.1%)となった。22年度は年度当初、同400円台前半で推移したものの、口蹄疫の発生、夏場の記録的猛暑の影響で出荷頭数が減少したことなどから、おおむね前年度を上回る価格で推移し、平均卸売価格は同474円(10.0%)となった(図10)。

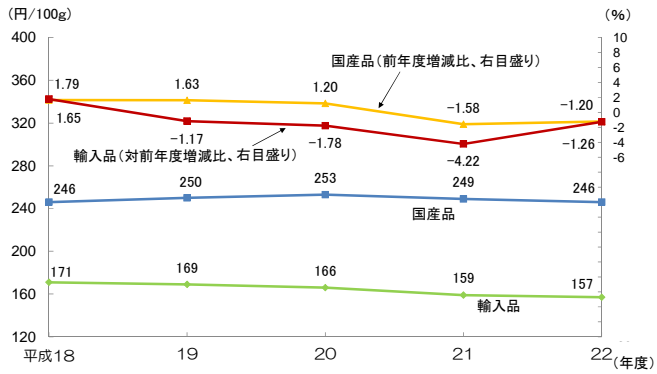
◆小売価格

22年度の小売価格、前年度からわずかに値下がり

「ロース」の小売価格(通常価格)は、22年度は、国産品は100グラム当たり246円(▲1.2%)、輸入品は同157円(▲1.3%)となった。国産品は高価格部位への需要の弱さを反映し2年連続で値下がりし、輸入品は4年連続の値下がりとなった(図11)。

また、「ロース」の小売価格(特売価格)は、22年度は、国産品は同183円(▲1.1%)と、ピークとなった20年度から2年連続で値下がりした。輸入品についても前年度をさらに下回る同97円(▲2.0%)と、景気低迷を反映した価格となった。(図12)。

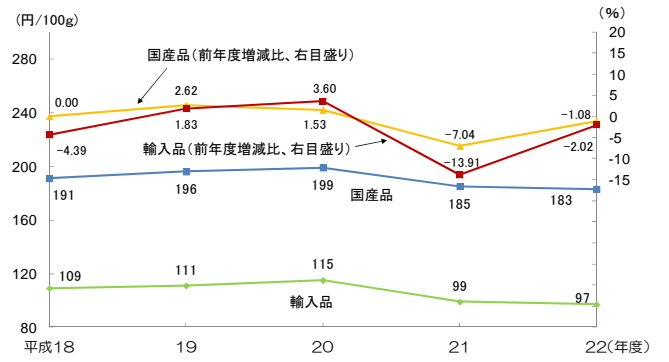
図 11 豚肉(ロース)の小売価格(通常価格)



資料:農畜産業振興機構調べ

注:消費税は含まない

図 12 豚肉(ロース)の小売価格(特売価格)



資料:農畜産業振興機構調べ

注:消費税は含まない